

「新型コロナウイルス」

2020年05月18日

新型コロナウイルスは世界中に蔓延し、猛威を振るっている。死者数は30万人を超えた。死者たちの無念さ、家族、友人の悲しみは世界を覆っている。日本では、諸々のデータによれば、収まりつつあるようである。新型コロナは「終息」ではなく、「収束」を待ち、第二波、第三波に備え、これからは「共存・共生」を覚悟しなければならないと言う。

新型コロナ問題で、色々なことを考えさせられた。温暖化のためか大規模な自然災害に見舞われているが、これらは局所的である。新型コロナは世界に蔓延し、治療薬やワクチンが開発されない限り、収まらない。人間の非力、無力さを知らされた。そして改めて、貧富の格差が悲劇を増幅することを知らされた。中小企業、零細企業は仕事ができず倒産し、そこで働く人々は失業させられている。ホームレスの人々が食事に見つけられない状態はこれから増えてくるであろう。生活できなくなった人々の心は荒み、事件が多発するのではないかと危惧する。自殺ではないかと思われる情報も流れ始めているが、自死者を出してはならない。シンガポールは日本より裕福な国であるが、その豊かさを支える外国人労働者たちは過酷な「三密」状態に置かれ、集団で新型コロナに侵されている。米国の死者数はベトナム戦争の戦死者の2倍になる。トランプ大統領が「真珠湾攻撃」、「9・11の同時多発テロ」より深刻だと言っているが、本当にそういう状況になっている。米国では、健康保険制度が整っておらず、救急車を呼ぶと数万円かかり、盲腸の手術をすると数十万円かかるので、貧しい人々は病気になっても病院には行けない。米国の死者数が多いのは、貧しい者たちを自己責任と言って、放置したからではないか。

新型コロナウイルスと闘っている医療従事者の健闘は称賛すべきである。命を救おうと、その職についたのであろうが、献身的な仕事ぶりには敬服する。また、人の困難を覚え、支援する人々の働きもある。日本では、自然災害を経験し、ボランティア活動が盛んになった。苦難を分かち合うことは人間であることの証しである。それに引き換え、新型コロナを巡って、理由のない差別、抑圧の暴言を吐き、行為に及ぶ人々の心なさに唖然とする。また、この機に乗じて、サギまがいの振る舞いには怒り心頭である。

政府の支援は、マスク2枚と1人10万円の給付から始まった。官僚が作った支援要請書類は煩雑で、出たくない書類のようであると聞く。支援金は国民の税金であるから、窮している人々の思いをしっかりと受け止め、出し惜しみせず、早急に出してほしい。そして、最も考えさせられたことは下記の点である。諸々の補償金や支援金、それに、失業保険金、生活保護費など、多額な費用が必要となり、新型コロナ対策に25兆6914億円の補正予算が立てられた。一方、地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」は総額6000億円超とされ、一機100億円以上のステルス戦闘機「F35」を147機も購入すると決めた。軍事評論家の布施祐仁氏は「軍事関係の雇用を創出したいトランプ大統領を喜ばせるため『爆買い』に走っているのが安倍首相。米国に嫌われれば、同国からの圧力で首相の座を追われかねないと考え、保身のために膨大な額の税金を使っているのだろう」と、安倍政権の延命のための無駄使いだと批判している。護衛艦「いずも」は、F35が発着陸できるように空母化を進め、31億円の改修費をかけ、沖縄辺野古新基地の工費は当初より3倍の9300億円、「思いやり予算」は年間2000億円程度を出している。これらの軍事費によって、国民の何を守ろうと言うのか。新型コロナは、生活を守る社会構造、健康を守る医療システムを構築する、それが、真の安全保障であると示してくれた。